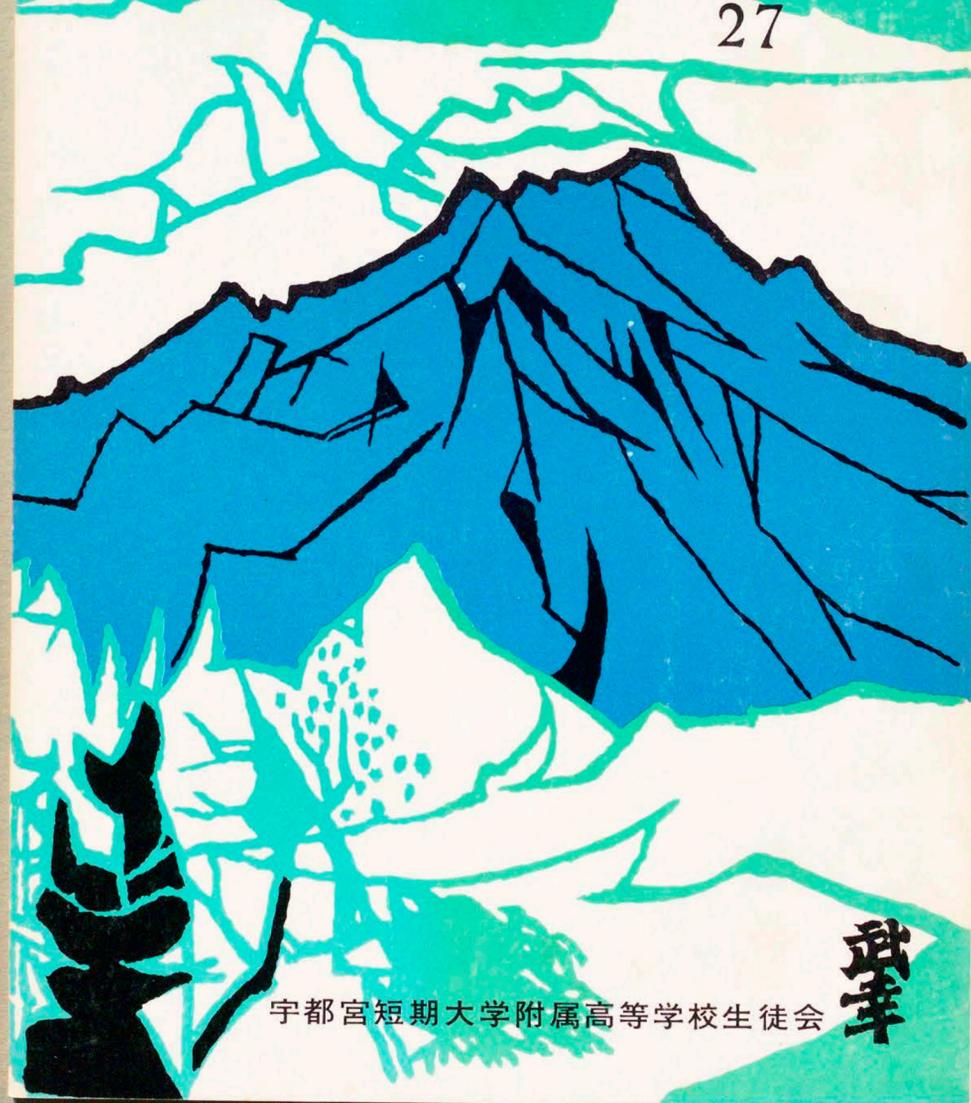


ひめまつ

27



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

翠

ひめまつ第二十七号 目次

〔巻頭言〕 評価高まる明るい学園 写真：伊東礼一 1
柔軟性豊かな生徒会に「新生徒会長としての抱負」 須賀友正 1
会員一人一人がもつと活発に（二年の活動をかえりみて） 田村芳江 3

特集 学園ニュース・トピック 生徒会役員選挙・校内弁論、合唱コンクール・生徒会総会・学校祭・生徒会役員選挙・校内弁論、合唱コンクール・生徒会総会・学校祭・生徒会役員選挙 5

▽活発な各地域学友会の活動 石橋保育園の清掃・鹿沼駅清掃・烏山老人ホーム慰問・今市・小山・間々田・善恵園・大楽園・児童相談所慰問外 12

感銘ふかい人生のひと日（演劇とコーラスで黒羽刑務所慰問） 16
中学生の見た本校の印象 阿久津中学校三年・野中 恵子・大峰 コヨ・石田 克世・阿久津昌子 16

◇クラブ活動この一年 「これからが真剣勝負（調理科第一回卒業生として）」 二年 佐藤 豊 17
図書委員会外・ソフトボール部外・和裁部外 18

短歌 クラブ校外活動について（昭和四十七年度） 大栗 美 子外 33
俳句 荒井尚子外 34

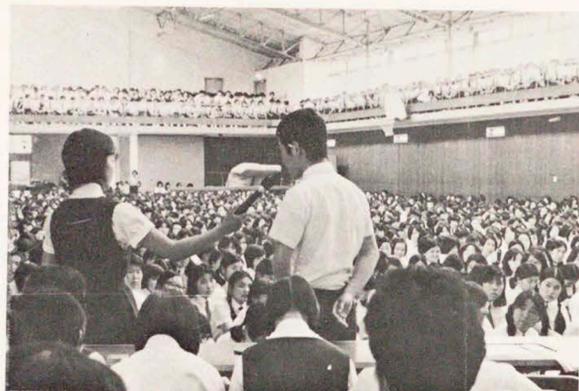
哀悼 神魂よ、安らかに（渡辺 甲先生・黒子 勲雄先生） 加藤 和子 36
黒子先生の思い出 池田 智子・優しい黒子先生 鈴木恒子 41
旺文社全国学芸コンクール佳作「真実一路」を読んで 43
弁論大会入賞者の論旨集 44

△栃木県人権擁護コンクール入賞作品 環境と境遇 磯 久子 48
心の浄化こそ人間回復への道 松島 陽子 調理師として働きたい 荒井尚子
明るい近隣関係の確立 浅見 祐子 食品添加物を追放しよう 堀 弘子
老人問題は私達若者の問題 知久 千代子 公害問題に思う 中山 公子

詩 国分 住子・鮎沢 悦子・こじまなおこ・中島つや子・福田 純子・大栗 美子 53
〔特別寄稿〕 随筆 伊沢 雪夫・斎藤 順二・廻谷 和子 58
宇短大附属高校を訪れて 元氏家中学校長 渡辺 久作 61

校内読書感想文コンクール入賞作品集 63
「阿Q正伝」 大内 明子 「怒りの葡萄」 福田 智子
「土」 吉森 弘子 「華岡青洲の妻」 西部 智美
「ひめゆりの塔」 国分 住子 「武器よさらば」 沢田 裕子
「車輪の下」 巻島 文子 「友情」 岩淵 典子
「野菊の墓」 小林 孝子

▽私たちの発言△ 級友の死を悼む 石崎 佳子さん 83
家庭科技術検定について 検定合格一覧 小川 玉枝さん 87
昭和四十七年度学校行事 昭和四十七年度生徒会役員一覧 甲文・秋本 直澄・根本ユキ子 90
生徒会・生徒評議会 94
生活目標について 95
職員住所録 96
▽編集後記 奥付△ 91



生徒会総会……聞き入る表情も真剣！（体育館にて）



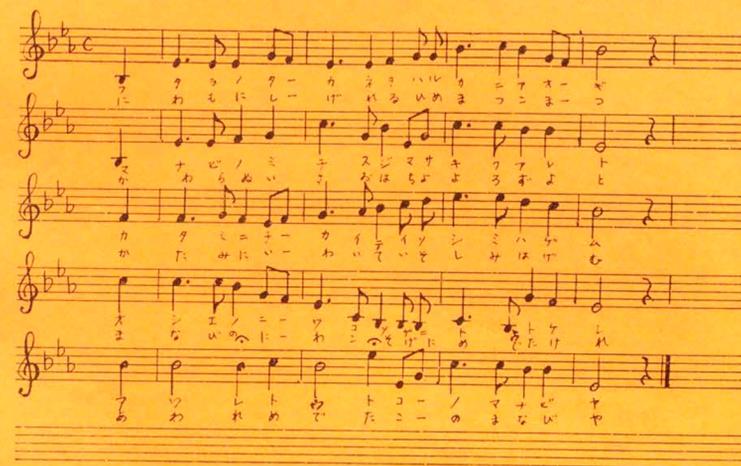
生徒会役員選挙
ユーモアたっぷりの応援弁士！

↑清き一票をあなた？に……



お年寄を大切に
敬老の日
私達もいまにみんなお年寄

校 歌



二 荒の高嶺を
学 びの道筋
か たみに誓いて
教 えの庭こそ
あ われ尊

一
運 かに仰ぎ
ま さきくあれど
い そしみ励む
げ に尊けれ
こ の学 びや

二
庭 面に茂れる
変 らぬ操は
か たみに祝いて
学 びの庭こそ
あ われ芽出度

一
姫 松小松
千 代方代と
い そしみ励む
げ に芽出度けれ
こ の学 びや

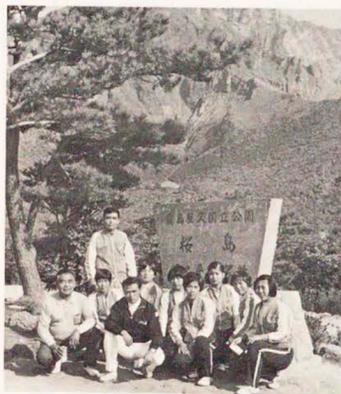
宇都宮短期大学附属高等学校校歌



本県を代表しての体操部国体出場！いよいよ出番
…(鹿児島市会場)にて



体操部
がんばってネ！
国体出場出発を前に壮行会



←戦い終わって
パチリ記念さつえい
これが桜島です



明るく 楽しく 朗らかに……合唱コンクール

創立72周年文化祭



↑このデパートでしょう？
洋裁科展示作品の一部

→家政科生徒たちの
手芸品美演即売会場風景



↑漫画家細谷秀樹先生の
似顔絵揮毫会(文芸部展示場)



実用品から豪華けんらんな芸術品まで(手芸科)



県下一を誇る家政科和裁展示品の一部



評価高まる明るい学園

学校長 須賀友正

この冬は例年になく暖かく、働くものにとってはけっこうなことではあるが、一方農作物にとってはどうかであろうかと気づかれる冬でもある。私もおかげをもって健康にも恵まれ、新春を迎えることができたので、ことは年賀のあいさつにも、志をうたに託しておくりすることにした。

はるを祝ぐうた学園にみちみちてしたりやまず松のみどりは、はるの陽光の明るさに在りこの幸にしづかなる心熱のたぎるをおぼゆ。このうたの示すとおり、私も年輪をこえてますます元氣であり、学園はいうまでもなく発展の一路を驍進、短大は基礎ようやく固まり、声価は全国的に高まり、南は沖縄から北は北海道にいたる広範な地域からの志望者が続出して、附属高校の方も、昨年につづいて一般に中学校卒業の生徒数が減っているにもかかわらず、本校志望生徒数は昨年同様いちじるしく増加している現状である。

このことは、本校の教育内容の充実についてのご理解が、県内はもとより近隣の各校各界の皆様方に広く深められつつ高められたしるしに外ならないであろう。

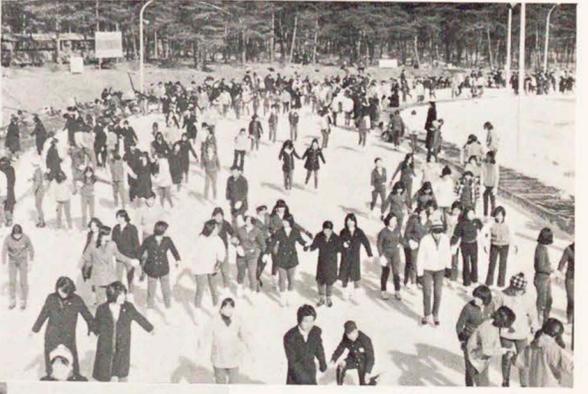
学園の一年をかえりみると、まず第一にあげなければならぬのは、昨年につづく体操部の躍進ぶりであろう。県代表としての関東大会、米沢市での全国選手権大会、および国体出場など、かがやかしい業績を残している。またソフト部の上位進出の外、学校祭をはじめ音楽・弁論・放送などの各種校内行事の催しなど多彩な活動が記録されている。また家政科の先生方の熱意と努力とによって、二十年来「家政科実技検定試験」の受験者数および合格率の高さなど抜群の成績を取めていることも特記されねばならぬであろう。

これらの明るい成果の積み重ねの上に、新年度はさらに総力を結集して、着実に、自信と誇りをもって、よりよい学園づくりに邁進しようではありませんか。

→かけ橋での語り……
|| 桧原湖畔
岬キャンパスにて ||



←ホームランの続出!
全校生が楽しめます
…校内球技大会…



↑初めてのスケート教室
滑る滑る全校生2,400名が参加
…日光所野スケートリンクにて…



大空へ跳躍する!男子バレー (校内球技大会)

十二分に発揮させ、がんばって下さったことと思います。
そして今年には本校創立七十二周年の文化祭が盛大に行なわれました。六月の生徒総会の議題にもあった『文化祭を私達の手で』ということが少しでも取り入れられ、自分達の手でやったのだという気持ちがありました。文化祭の後アンケート調査をした結果、色々な意見がありました。最終的にまとめますと前回の文化祭よりも良くなったというものでした。しかし今回の文化祭で満足できなかった人達もたくさんいました。自分達で何もかもやりたかったようです。でも、いざ自分達の手にも何もかも任せられた場合、実際に考え行動できる人はどれくらいいるのでしょうか。私は極く一部の人がいないと思うのです。これは文化祭のことだけでなく全般的に見ていえることです。そして、また学校の規則や授業中の態度など最低限守らなければならないルールは、守っていきましよう。私も反省しております。このようなことが守れない私達に自分達のやり方のようにやらせてくださいという資格があるのでしょうか。そして口ばかりでなく本校生徒に欠ける積極性を養い実行するということをもう一度良く考えなければいけないのではないのでしょうか。私達は無駄口よりも本当に必要である時、自分の意見がはっきりといえる人間にならなくてはいいと思います。

みなさん、自己をふりかえってみてください。そして、自己を反省し会員一人一人の手で、これからは本当に充実した生徒会づくりに第一歩から出直してってください。みなさんの手で。

私は、これからの生徒会が、生徒一人一人にとって意義あるものになることを期待いたします。
社会奉仕の面では『優しい心づかいの運動』という名のもとにクラスやクラブ・学友会などで自主的に施設慰問をしたりしてまいりました。社会に奉仕するということがとても良いことだと思えますので、これからも全生徒が一致団結して社会のために貢献して欲しいと思います。

生徒会役員として未熟ながらもこの一年間を無事に過ごすことができましたが、今更のように感じることは、人を指導していくことのむずかしさと、多くの人達が集まり、一つのことをやるということのむずかしさと、生徒会の本当の目的、またあり方について考えさせられました。しかし、今になって思えば、この一年間は、人間として一つの尊い試練として私の生涯にきつと役立つことがあると思います。

この未熟な私が、生徒会長という重責を果すことができたのは、ひとえに顧問の先生をはじめ、諸先生方の暖かき御指導と会員のみなさまの御協力によるものと心から感謝いたしております。どうぞこれからも会員一人一人が協力しあい、よりよい生徒会を築きあげ、学園発展の為に全校一丸となって努力して下さることを祈念いたし、私のあいさつといたします。

集 特 学園ニュース・トピックス

『信瀬ひとみが会長に』

活発だった 生徒会役員改選

十二月九日土曜日、昭和四十八年度生徒会役員改選が行なわれた。今年には体育館増築のため、一年生だけが講堂に入り、二・三年生は教室にて放送によって演説を聞くといった方法がとられた。あらかじめポスターなどによって立候補者および方針などを知らせ、共に立候補者自身も積極的な行動を見せた。三年生の生徒会役員と評議員とで、選挙管理委員会を組織し、今年には副会長候補十四名、会長候補十五名が立候補したが、会長候補から一名の棄権者が出たことが残念だった。約三時間にわたり、自分の方針を立派

に述べた。演説が終了すると各立候補者は、三年生の生徒会役員に誘導されて、二・三年生の各教室を回り、簡単に自己紹介をした。投票は、一年生はそのまま第一、第二投票箱にクラスごとに投票し、二・三年生は、役員が投票箱を持って各クラスを回った。開票は生徒会顧問の先生、立候補者の責任者立合いのもとに選挙管理委員の手で行なわれた。今年の立候補者は次の通りである。

クラス	氏名	得票数
1の1	長南千恵子	五八七
2	芳賀美地子	一〇八
3	大岩 正子	六六
4	大森 豊子	一六
5	大貫 桂子	九五
6	牧野タカ子	六二
7	福田イエ子	一〇三
8	齊藤 光男	五八七
9	秦 幸男	一三四

クラス	氏名	得票数
2の1	岡田セキ子	四六
1	川俣 寛子	六九
2	白石恵美子	一〇〇
3	確永久美子	五四
4	根本ユキ子	一〇八
5	阿久津茂子	六九
6	赤羽 久代	六九
7	高木 修	三五
8	小林 明彦	一〇五
9	大内 文子	二四六
10	信瀬ひとみ	五三七
11	渡辺 容子	一四
12	淵岡真佐子	五〇
13	黒川 正子	八四
14	黒山 浩行	二〇九
15	神山 浩行	二〇九
16	神山 浩行	二〇九

以上の通りであるが、尚会長には二年十二組の信瀬ひとみが、副会長には二年九組の高木修と二年八組の齊藤光男がそれぞれ当選した。また、今年には男子生徒の立候補が活発だった。(川北 久子)

荒井尚子さんが優勝

第七回校内弁論大会

第七回校内弁論大会予選は、十一月六日・七日・八日に、本校講堂において開催されました。各クラスから選出された代表が熱弁をふるい、本選は十一月九日に行なわれました。予選通過者十三名の出場者が優勝を争った結果、調理科の荒井尚子さんが二年連続優勝の栄を勝ち得ました。

なお入賞者は次の通りです。

- 優勝** 「調理師として働きたい」
三年八組 荒井 尚子
- 二位** 「高校生のプライドとは」
一年一組 長南千恵子
- 三位** 「愛校心について」
一年十二組平石よし

技術的にも著しく向上

校内合唱コンクール本選

第九回校内合唱コンクール本選が十一月十日講堂にて行なわれた。今年は文化祭を次にひかえての準備と体育館増築のため、文化祭の係になっている者以外の生徒が講堂に集

まっして本選が行なわれた。講堂が狭くて全員がすわることができなく、うしろの方で立っている人が多かったため、聞く態度が十分でなかったが、それでも本選に出場したクラスは、精一杯歌っていた。

今年の課題曲は、三木露風作詩・山田耕作作曲「赤とんぼ」。第一位には、金の女神と賞品賞状、二位・三位のクラスにもそれぞれ賞品賞状が授与された。今回は審査員として出席してくださった先生方からの講評でも、おほめのことばをいただき、成功のうちにも、第九回校内合唱コンクール本選を閉会した。また審査発表前に次の賛助出演があり、聴衆の耳をうばっていた。

音楽科合唱団 「花 季」

コーラス部 「赤とんぼ」

「荒野の歌」 (川北久子記)

議題は「学校祭を自主的に」など

生徒総会終る

六月二十七日(木曜日)一時三十分より開会の言葉によって始められた昭和四十七年度

生徒会総会は、校長先生の挨拶、生徒会長挨拶、新本部役員紹介、専門委員会委員長紹介とスムーズに行なわれた。続いて四十六年度行事報告、本年度行事計画、四十六年度決算報告、四十七年度予算案などが発表され、議事に入るわけであるが、その前に各種報告についての質問を取ったところ、別段これといった質問もなく、満場一致可決され議事に入った。

議題はまず、(1)高校生らしきについて、(2)文化祭を私達の手で、との二つがあり、前項の方は高校生としての内面的な面、外面的な面、および学習面についての、三つの面に重点がおかれ、男女交際や服装面の問題などがかなり活発に討論された。結論としては、高校生としての自覚を持つて、他人からみてもすがすがしい態度をとるべきだということに落ちついた。(2)の「文化祭を私達の手で」については、文化祭についての考え方などで本校の文化祭を経験した三年生からの、二年前の文化祭をふりかえってみて、満足感が得られなかったこと、生徒の手による文化祭にしてほしかったなどと、あまり活発な意見はでなかったが、一応、生徒の自主的行動によるとの意見によって討議を終了した。その他

生活目標

- 一人は一校を代表する
優しい心づかいの運動を推進
礼法を正す
己れに厳しく他人には寛大であれ
- 生活小目標**
- 昭和四十二年度
校内での会釈、校外での目礼
「優しい心づかい」の推進
- 昭和四十三年度
あいさつは明るくはがらかに
ことばづかいを美しく
- 昭和四十四年度
何事にも自主的に
動作はきびきびと、言葉はきはきはきと
- 昭和四十五年度
時間を大切にしよう
明るい笑顔で正しいあいさつ
- 昭和四十六年度
何事にもはじめをつけよう
紙くずのない学校にしよう
- 昭和四十七年度
規律正しい生活を送ろう
自分の行動に責任をもつ

実演が大好評

新企画いっぱい学校祭

創立七十二周年を記念する学校祭は十一月十一・十二両日にわたり、本校々舎において開催。展示に、実演に、約四千五百

名の入場者を迎えて盛大に開催された。

◇第一会場は校史、演奏(音楽科生徒) 音楽科レッスン、書道(川俣先生の色紙揮毫、スズリ、筆の展示) 美術・写真・商業・喫茶室

◇第二会場は和服製作、洋服製作、手芸作品被服実演と即売・華道・調理実演と即売・調理・食品・造花即売・文芸(郷土歌人田波御白の研究・細谷先生の似顔絵漫画揮毫会) 芸術の森、チャリティーバザー、理科・放送(珍らしい音のコーナー) 映画と演劇(自作8ミリ映画の上映および演劇部公演) 食堂

本年度の特色は、生徒自身の学校祭というポイントを強く打出し、生徒の参加を積極的なものにするために、生徒による実演を各展示とあわせ行ない、好評を博したことがあげられよう。なお、往年の本校名物バザーを思わせる企画もうけていた。

▽▽▽大いに振う

弁論部は本校文化クラブの花形として毎年優秀な成績をおさめているが、本年度も次のような成果をおさめた。

○第十九回高校ユネスコ県大会
最優秀賞(一名)

使い捨ての時代に思うこと

優秀賞

心の浄化こそ人間回復への道

優秀賞

環境と境遇 二年 磯 久子

全校二千四百名が参加

校内読書感想文コンクール

昭和四十七年度校内読書感想文コンクールの受賞者は、二千四百名の参加者の中から慎重審査の結果、つぎのとおり決定した。ことしも夏休中に、一人最低三冊を読み、各自必ず一編の感想文を提出することにし、審査は各学年別に行ない、各学年毎に上位三位までを賞とし、賞状ならびに賞品をおくり、表

彰することにした。各学年別の入賞者はつぎのとおり。

〇一年

一位 「車輪の下」 13組 巻島文子
二位 「野菊の墓」 2組 小林孝子
〇三位 「永遠の青春の書」

〇二年

〇一位 「怒りの葡萄」 16組 福田智子
〇二位 「華岡青洲の妻」 8組 西部智美
〇三位 「武器よさらば」 11組 沢田裕子

〇三年

一位 「阿Q正伝」 10組 大内明子
〇二位 「土」 9組 吉森弘子
〇三位 「ひめゆりの塔」 5組 国分佳子

なお、各学年の佳作入賞者は次のとおり
【二年】 ひも・長南千恵子。破戒・伊沢久子。野菊の墓・田代勝江。走れメロス・山本勝子。ころも・大貫桂子。河のほとり・荒井千代子。車輪の下・松沢澄子。恩讐の彼方に・小山大美子。あすなる物語・関口愛子。生まれいづる悩み・仁平三佐子。永遠のエルザ・吉沢博子。狭き門・吉沢敦子。
【三年】 恋と若菜集・赤羽恵子。おとうと・宇賀神久美子。若きウエルテルの悩み・大沼

弘子。たけくらべ・宮田和子。花埋み・阿久津宜子。若きウエルテルの悩み・高橋和子。二十才の原点・六本木静子。罪と罰・寺内博。愛と悲しみの日記・広沢定子。友情論・江連喜美子。二十才の原点・大内文子。友情・大塚美智子。お登勢・鳥水恵子。山月記・加藤悦子。高校生として考えるために・隅田仁子。アンナ・カレーニナ・三品和加子。

【三年】 ビルマの竖琴・近藤町枝。ビルマの竖琴・石橋光江。悲しみよこんにちは・五月女和子。隣の嫁・小野口幸子。あすなる物語・川北久子。わたしが棄てた女・阿久津賢二。父ちゃんのボイが聞える・黒川敏宏。伊豆の踊子・荒井尚子。ころも・菊池恭子。ビルマの竖琴・吉沢志保。高瀬舟・斎藤三枝子。

なお、審査には国語科の先生方全員が各学年毎に分担して当たり、公平と慎重を期したが、講評を総合すると、例年レベルアップされ、特に三年大内明子の「阿Q正伝」二年福田智子の「怒りの葡萄」などは、全編の中でも最も勝れ、もし最優秀賞などの制度が中であらば、優勝候補にも値すると激賞されていた。

旺文社作品鑑賞に入賞

全国学芸コンクール

旺文社主催「第十六回学芸コンクール」最終審査は、八万におよぶ応募作品に対し、慎重に審査されていたが、その結果、本校から「作品鑑賞」の部に応募した鈴木恒子さんが前年にひきつづき左のとおり佳作に入賞し、「真実一路」を読んで、三年 鈴木恒子

浅見祐子さんが優秀賞

人権擁護作文コンクール

栃木県人権擁護委員連合会、宇都宮地方法務局主催の「基本的人権尊重の精神を普及高揚のための高校生作文コンクール」において本校から応募した次の四名が優秀賞、および佳作に入賞、それぞれ賞状ならびに記念のトロフィーをおくられた。なお優秀賞の二名は栃木放送局において、自作品の放送を行なった。

優秀賞「明るい近隣関係の確立」

二年 浅見 祐子

同 「老人問題は私たち若者の問題」

二年 知久千代子

佳作 「食品添加物を追放しよう」

二年 堀 弘子

同 「公害問題に思う」

三年 中山 公子

恩師校長先生から

感謝のお便り

私は、御校三年柏瀬せつ子さん（鹿沼市立北大飼中出身）から、季節の変わり目などについてもお便りをいただいております。私は、昨年も柏瀬さんのお便りは読んでおります。これは御校の教育方針の然らしむるところと感激し、失礼をも顧みず敢えてお葉書を差し上げた次第です。本当に有難うございました。末筆ですが、先生のご健勝を祈ります。

昭和四十七年八月十九日

このお便りは、北大飼中学校校長唐紙弥七先生から本校々長にあてられたもの。師弟愛

こまやかな微笑ましい話題として、紙上に取り上げさせていただきました。

編集部

第十回定期演奏会

創立七十二周年を記念する恒例の定期音楽会は、十二月二十一日（木）午後六時から栃木会館大ホールにおいて開催、ことしも宇都宮東高校合唱団（約三百五十名）の賛助出演を得て、八百名の大合唱ハレルヤコーラスをもって最後を飾り、盛大に終了した。演奏曲目はつぎのとおり。

- ①ヨハン・シュトラウス 皇帝門舞曲作品437
 - ②ベートーベン ピアノ協奏曲 第3番
 - ③シューベルト 交響曲 第8番 口短調「未完成」
 - ④ヘンデル オラトリオ「メサイヤ」よりハレルヤコーラス他
- なお当日は午前の部本校生徒、午後の部中学校招待および本校生徒、夜の部は一般公開としたが、満員の聴衆から絶賛を博した。

体操部が国体出場

各種大会に続々優勝

体操部は、国体県予選でかがやく戦果をおさめ、県代表として鹿児島市における大会に進出したが、その戦績はつぎのとおり。

◇八月十一・十二日国体予選（五十名参加）
栃木県個人優勝

青木恭子 三年（都賀中）

二年生の時も優勝、和歌山国体出場

（以後各大会に出場し個人優勝）

同第三位 玉田よし子（都賀中） 三年

同第四位 田辺 孝子（藤原中） 二年

同第六位 田辺 孝子（鹿沼東中） 三年

◇十月二十二日・二十七日国体出場

（本県勢の成績は中位。）

◇県下高校二部大会（県内八十名参加）

国体総合優勝

個人総合優勝 古山秀子 一年（栃木東中）

種目別 床・跳馬

◇その他の大会成績
第四位 山口恵子（陽北中） 平均台

第三位 山口恵子（陽北中） 平行棒
第八位 斎藤淳子（七合中）

陸上部が初の優勝

女子槍投げで吉村和子が

陸上部は西川路先生のこんせつな指導のもと、活発に活躍し、中部地区新人大会では、クラブ開設以来初の優勝が、吉村和子によって女子槍投げで達成されるという成果をおさめた。主なる成績つぎのとおり。

◇七月二日（日）関東高校陸上県予選

学年別百メートル（一年） 黒須 忠 一の九

十二秒一 七位

◇十一月五日（日）中部地区新人大会

女子槍投げ 吉村和子 二の三

二五米二四 優勝

男子百メートル 黒須 忠 一の九

二一秒一 五位

男子二百メートル 黒須 忠 一の九



「思い出のスケート教室」 今年初めて、華やかに開設

真白に雪化粧した日光連山を背景に、日光所野のスケートセンターで、宇都宮短期大学附属高等学校のスケート教室が、一月十二日はなやかに実施されました。

在校生二千四百名の参加であり、バス四十三台を配し、全校一斉に行なわれたのは、前代未聞、バス会社でも初めてのことなので綿密なる計画が副校長先生を中心として練られ、各学年毎に、少しずつ時間をずらして出発することに決定した。というのは、午前九時前後は、出勤等での車で学校前の道路が、混雑するので、事故にあわないようにとの配慮からである。当日、計画通り、スムーズに出発でき、車内では、思い思いの歌や余興が飛び出し、生徒達の喜びが手にとるように私達に伝わってくるのを感じた。

所野でバスを降りた生徒達は、我先にと、リンク内になだれ込むようにして消えていった。一人一人の顔が活気に満ち溢れ、ワーワ

ー、キヤーキヤーとはしゃぎ廻る生徒に、真冬とは思えないような陽の光が、サンサンとふりそそぎ、まぶしいくらいであった。リンクから見わたせる日光の山々は、実に美しく手前には、バス四十三台が駐車場狭しと並んだ風景は、日光連山の美しさに一段と花を添えていた。

午後、三時間余り滑っても、まだ物足りなく、靴を脱ごうともしない生徒も多少いたが、乗車させ、帰途についた。

これといった負傷者も無く、無事終了出来た天候にも恵まれ、生徒達には忘れられない出来事になったと確信しています。これから、あの楽しく、思い出多かつたスケート教室を、毎年続けていきたいと考えております。 (体育科 海老原昇記)

老神温泉から赤城へ

有意義だった第二回PTA研修旅行

第三回PTA研修旅行は、ことしも県外への希望者が多かったため、群馬から両毛地区を経て帰校する企画が決り、次のコースとプログラムにもつき実施された。

▽九月三十日学校発 今市・日光 奥日光

金精峠 菅沼 大沼 東小川 吹割の滝 追

具 老神温泉（山口屋旅館一泊）

▽十月一日老神温泉 利根 沼田 赤城山

前橋 伊勢崎 太田 足利 史跡足利学校見

学） 佐野 栃木 帰校（解散）

奥日光に入ると、さすがに秋の気はすがすがしく、明習平ではりんどうが青く炎え、中

禪寺湖畔ではナナカマドの実が熟れて真っ赤な彩りを見せてくれ、私たちは飽かず眺めや

った。金精峠から菅沼・大沼を経て走ると奇神金精神の祀られている社があり、こいら

からしばらくの道筋をトウモロコシ街道とい

う由。なるほどその名にふさわしく、トウモ

ロコシを光る小店がずらりと街道に店をはつている。白根温泉などという温泉も見られた。

が、このコースの庄巻は何といつても片品深谷、鱒飛びの滝とその対岸の獅子岩、また天然記念物に指定されている「吹割の滝」の奇観である。滝は高さ7m市30mにおよび、東洋のナイアガラといわれ、滝の割れ目は竜宮城に通じているという伝説がある。

私たちは身近かにあこがれの秘境尾瀬を感じながら、老神温泉に到着。ホテルに入るや

くつろぐ暇もなく直ちに研修会に入り、教務部がまとめた「本校生徒学習実態調査」等を資料に、約一時間半にわたってディスカッションを行ない、つづいて懇親会に移ったが、こ

こでも熱心な人達から、活発な意見が次々と持ち出され、それぞれのグループは夜半まで話し合いがつけられたとのこと。

第二日は早朝出発。片品川の溪流に沿い、雄大な上州の山また山を抜け出して、林檎の色づきはじめて利根の村々を経て沼田へ。途中四国の屋敷を想い起こさせられる山々のた

たずまいが印象的であった。

いよいよ沼田から国定忠治のお馴染みの赤城山へ。ところどころを彩る赤い曼珠沙華の花々に心をうばわれながら、新装成った赤城

白樺ラインを赤城の頂上を目指して走る。標高一八二八米。沿道には深山里りんどうも姿を見せ、地蔵岳のあたりにはもうかなりの紅葉が見られた。赤城牧場、新坂平のつじの大群落や白樺林を通り抜けて黒松山の雄姿が大沼、小沼をかがや、かせる。湖畔で自由解散、小鳥ヶ島に渡り、志賀直哉の文学碑を見て新造宮の赤城神社に詣でる人、ゴンドラで地蔵岳頂上の展望を楽しむ人などとりどり。私は湖畔で六川さんに、折から一息入っていた馬と一緒にパチリと一枚撮っていた。見習いたいと思ったこと——前橋、伊勢崎太田と通り抜けた群馬の市街のキレイだったこと。長野めぐりのときも同じような感じを持たされたことも思い出された。

足利では史跡足利学校を見学、孔子廟では孔子坐像を拝し、また小野篁の像にもお目にかかるなど、研修の最後をしめくくるには好適の企画であった。

◇研修旅行参加者は次のとおり。
 高山源吉・古橋常作・近藤登美子・瀧岡真文・登坂教馬・植野由一・篠崎キミ江・斎藤文夫・六川彦次・室井伝・岡田喜三・篠原政・荒井清雄・君島啓二・渡辺清己・形山一雄・菊地武夫・手塚昭二・古山康夫

大塚昌男・滝達巨・関口一夫・鶴見直四郎
 吉沢要・阿久津庄三郎・斎藤齊・石川善治
 鈴木庄吉・高橋清太郎・斎藤良・佐藤金石
 工門・早乙女早苗・石川満智子・斎藤喜久
 智・服部一二の各氏。(以上父兄側)
 副校長・斎藤教頭・太田・大島・築島・手塚各教諭(以上学校側)



赤城へ向かう一行が揃ったところで……老神温泉ホテル前

学友会の活躍

奉仕に
 慰問に
 親睦に
 優しい心づかいの運動を

二つの保育園に奉仕して
 石橋支部・黒川正子(二年)

私たちの支部は、駅清掃などという社会への奉仕を校内で第一に始めたといわれています。この先輩たちによって築かれた伝統は、一時的にはとぎれがちになりながらも、今でもその名譽は守り続けられています。

そして、昨年も例年通りいくつかの奉仕作業を行なってきました。その中で最も印象に残っているものは、町にある二つの保育所へ慰問にいったことです。「作業をする」ということが、その慰問の第一の目的だったので子供たちとはほとんど遊ぶことも話すことも避け、草むしりなど庭の手入れをしました。そして、それが終わった時、教室の中に数人の子供たちがこつていることに気づきました。もう、夕暮れだというのに……一人の子供が教室から出ていきました。もう一人……そしてまた一人……とうとう残っているのは一人だけ。その子の小さな愛らしい目は、ある一点の方向をじっと見つめていました。たぶん、その方向にあの子の家があったのでしよう。そして大きなやさしい心を持った母親の愛の手が早く訪れるのを待ち望んでいたのでしょう。私は、その姿を見て現代社会のこのまうな現状を悲しく思わずにはいられませんでした。

私たちは、何のために慰問にいったのでしょうか。子供たちの「目」、めほとつても淋しそうですね。そんな顔を思うと奉仕をすることよりも、子供たちといっしょに遊んだほうがずっと実のはいった慰問になつたのではない

かと思っています。こんな実態から考えて、今年はこのような機会があつたなら、奉仕作業を兼ねてあのような子供たちと、遊んだり歌ったりして楽しみたいと思います。——これが、当支部一員として今年に贈る最大の抱負です!!

駅清掃と慰問と 鹿沼学友会の活動

学友会は、鹿沼西中・東中の出身者で、百二十名のうち、女子が百名、男子が二十名で結成されている。顧問は、三矢先生です。この奉仕活動は、五年前に「登・下校中に見る国鉄鹿沼駅がよごれているので、私達が清掃することによって、駅員さんの手がはぶけるとともに、利用する人も楽しく快く利用できるのではないか」という生徒側からの自発的な申し出により、数人の先輩によって、始められたもの。毎週土曜日の午後実施し、一・二・三年生を含め、十人ぐらゐを一班として女子十班、男子二班を作り、二カ月から三月月の割合で、一班ごとに、季節や学校

の行事などにあわせて、曜日、時間を変更し約一時間の清掃を行なってきました。清掃を始める前に、駅長さんに「清掃をやりますので、よろしくお願ひします」と言う、「いつもすみませんね。よろしくお願ひしますよ」と言ってくれ、また、清掃中など「苦勞さん」と、駅員さんや売店のおばさんが言葉をかけてくれる。また、駅を利用する人も「どこの高校ですか」とか「苦勞さまです」などと言葉をかけてくれ、私達が清掃をやっているのを見て、下にちらかさないで、ごみ箱にすてて行く人も多くなってきたのは、とてもうれしいことだ。年末には、全員で大清掃をやりました。駅員の人たちにとってもよろこばれた。この大清掃の時には、来た人全員に、駅から、コップしきをいただいたり、夏休みの清掃の時などは、駅員さんが、あつくて大変だからと言って、飲み物などを持って来てくれたこともあつた。

この奉仕活動は、お互いに協力して、あくまでも「奉仕の精神」で、実施している。音楽科や運動部員など参加の出来ない人たちに ついては、特別考慮をほらい、都合の悪い人達も、個人個人で交換し合つて、毎週活動は続いています。また、駅清掃ばかりでなく、